



書評

[評者]

西村 広健

川崎医科大学病理学/
病院病理部

末梢神経病理

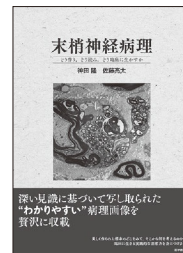
どう作り, どう読み, どう臨床に生かすか

神田 隆, 佐藤 亮太 著

●B5 頁200 2024年5月

定価: 11,000円 (本体 10,000円+税 10%)

[ISBN978-4-260-05620-5] 医学書院刊



本書を読んだ感想, 発刊への感謝を述べるには“1万文字”あっても足りませんので, 特に心引かれた[章]を紹介します。

[第4章: 末梢神経の正常像] エポソ包埋トルイジンブルー標本に加えて電顕写真もたくさんあり, 無髄線維の見え方まで教えてくれます! 血管1つとっても理解が深まりました。

[第8章: 剖検での末梢神経の検索] とにかく衝撃を受けました。「C7の前根ってこうなってるの? Th2は全然違うじゃん!」「近位と遠位の病理の大きな違い」など今後の検索にきわめて重要な知識です。

[第10章: 炎症性/自己免疫性ニューロパチー] 多くの読者が一番読みたかった内容でしょう。脱髄の現場をリアルタイムで動画を見ているかのように感じる“ダイナミックな写真”です。

[第11章: 内科疾患に伴うニューロパチー] よく知っていたつもりの血管炎でも実は大きな発見がありました(引用論文リストも, とても参考になります)。

「[実践編]」の第16・17章] 一般病理診断レポートを毎日書いている私にとって, 日々の病理診断を見つめ直すきっかけになりました。

さて, あまりにも写真がきれいで大き

くってわかりやす過ぎるため「これは実際の標本を見ているのと同様, いや, それ以上だ!」と思い, 写真の説明や本文を読む前に, まず自分で写真だけみて“病理所見・病態”を推察しながら読み進めました。「だいたいわかるようになってきたぞ」と最終第17章のクイズにたどり着き……。すんません! もう一周, 読み直します! (※第2弾として「200問の練習問題集」を出してくれないかなー……。)

脳神経内科の先生方はもちろん, 病理医にも本書を読んでほしいです。われわれ病理医にとってアンタッチャブルな分野ですが, 本書を読めば末梢神経病理の美しさに目を奪われ検索したくなること間違いなし! (自施設の脳神経内科の先生にさっそくご相談を)。分子病理診断がメインとなりつつある今日この頃ですが, “電顕写真一発で診断できる!” っていう若い病理医には初めての経験を味わえるかもしれません。本書で末梢神経病理を勉強するなかで, 日々の病理診断にどう向き合うべきか, 病理医にとって参考になるヒントがちりばめられています。ぜひ本書を読破してください(驚くほど「あっ」という間に読み終えてしましますヨ)。